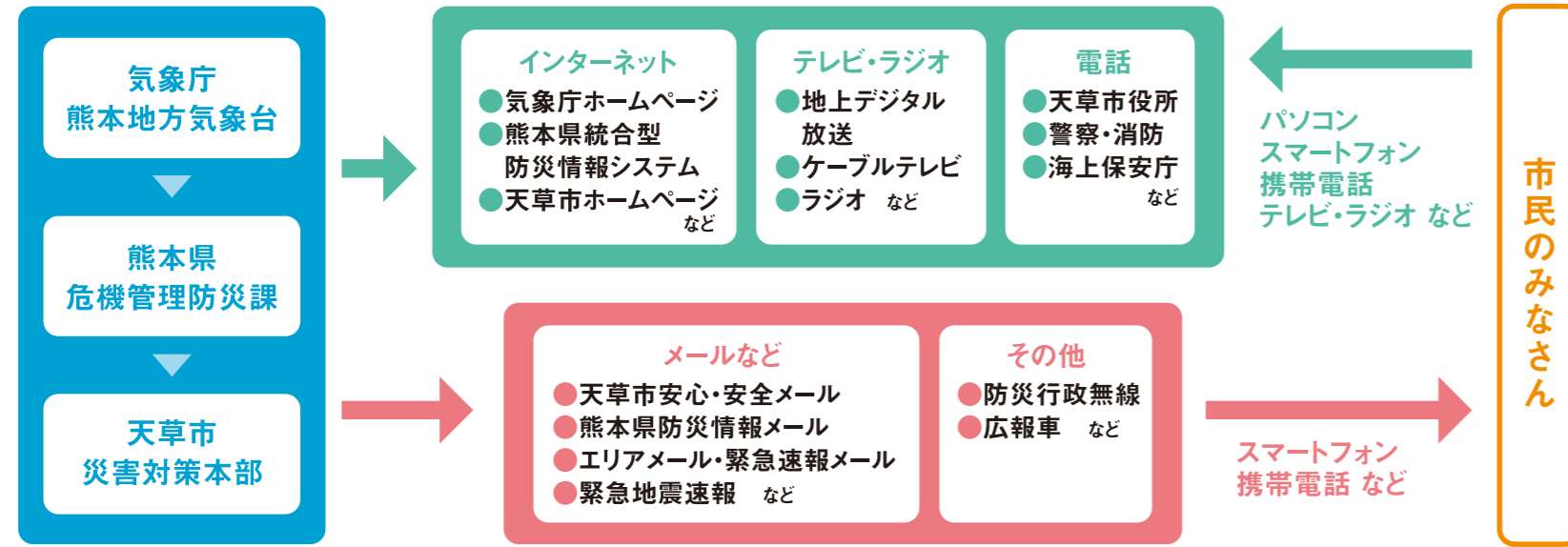


自ら判断し、早めに避難しましょう!

いざというときは



情報伝達の経路

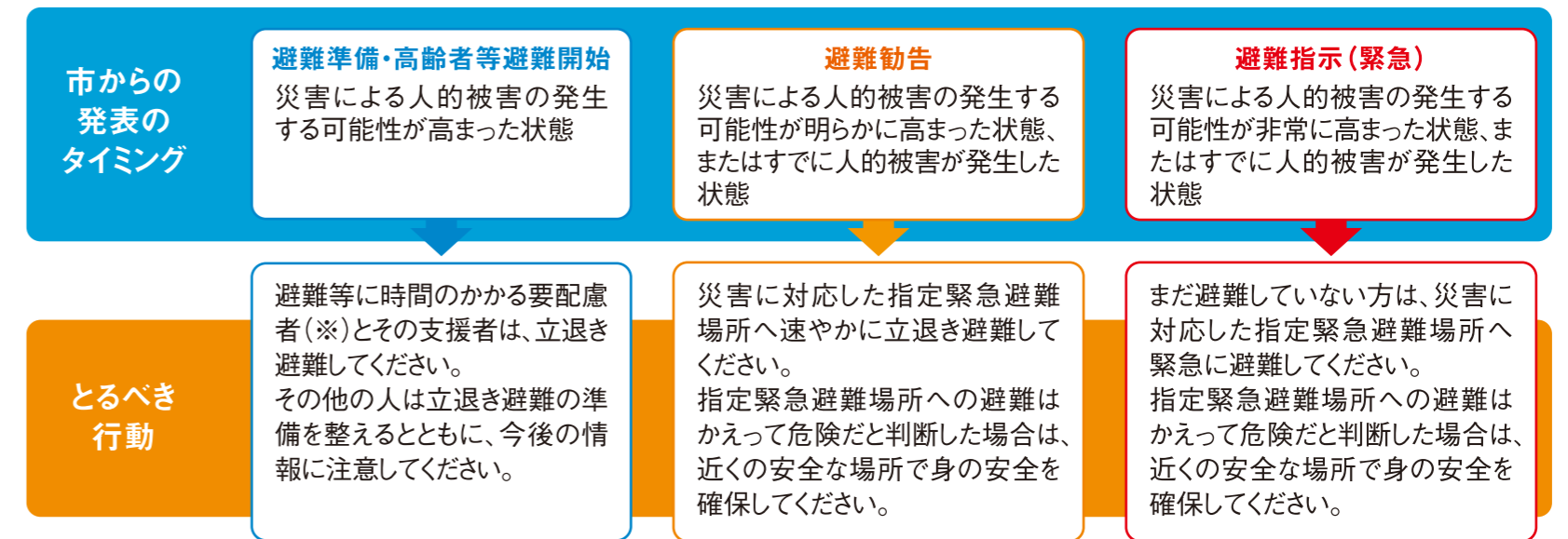


災害の種類と防災情報・行動のポイント

災害の種類	洪水(大雨)	土砂災害	高潮(台風)	地震	津波
防災・気象情報	気象予報			緊急地震速報	
	水位観測情報 記録的短時間大雨情報	雨量観測情報 土砂災害警戒情報	潮位情報		
警報・注意報	大雨注意報、洪水注意報など 大雨警報(土砂災害、浸水害)、洪水警報など 大雨特別警報(土砂災害、浸水害)、高潮特別警報など		高潮注意報など 高潮警報など	震度5弱以上 震度6弱以上	津波注意報 津波警報 大津波警報
避難情報	避難準備・高齢者等避難開始			避難指示(緊急)	
	避難勧告			避難指示(緊急)	
行動のポイント	●気象情報に注意し、早めに避難する。 ●川に近づいたり、田んぼの見回りには行かない。	●前兆現象(がけから小石がバラバラ落ちてくる、山鳴りがするなど)や身の危険を感じたら速やかに避難する。	●台風の進路を確認し、家の中・外の安全対策を行う。 ●海沿いにお住まいの方は、潮位情報に注意し、早めに避難する。	●まずは身の安全を確保する。 ●揺れが収まったら、ガラスの破片などに注意し、火元の確認、初期消火を行う。	●海沿いにいた場合は、速やかに高台へ避難する。 ●注意報・警報が解除されるまで、海沿いには近づかない。

避難情報と住民がとるべき行動

災害が発生する可能性が高まり、住民の皆さんの避難が必要になった場合に、市は避難に関する情報を発令します。市民の皆さんは情報を確認し、適切な行動をとってください。



(※)要配慮者とは、高齢者、子ども、障がいのある方、その他の特に配慮を要する方を言います。

屋内安全確保(垂直避難)

- 予想される浸水が2階の床面(3m)未満の場合



- 屋外への避難がcaえって危険な場合



立退き避難(水平避難)

- 2階の床面(3m)以上の浸水が予想される場合
- 土砂災害による家屋倒壊などのおそれがある場合



夜間に大雨が予想される場合は
明るい時間帯での
予防的避難を
心がけてください。

避難する場合...

- 避難する前に
電気のブレーカーを落とし、ガスなどの火元を閉め、親類や知人などに避難することを連絡しておきましょう。
- 一人暮らしのお年寄りなどには気配りを
近所の一人暮らしのお年寄りや病気の方がいる場合は、声を掛け合って一緒に避難しましょう。
- 車での避難は控えて
車での避難は緊急車両の通行の妨げになり、交通渋滞を招きます。特別な場合を除き徒歩で避難しましょう。
- 浸水した道路を通る場合
水路には十分注意して、できるだけ高いところにある道路を選びましょう。
- 速やかに避難しましょう
避難に関する情報が発表されたら、速やかに避難しましょう。避難の際には消防団員などの指示に従いましょう。

災害時に特別な配慮を要する方々への支援

高齢者や障がいをお持ちの方など、災害時において特に配慮を要する方々は、災害発生時において地域の皆さんの支援が必要となります。

- 高齢者・病人
・おんぶ(または担架、リアカーなど)を利用して安全な場所まで避難する。
・複数の介助者で対応する。
- 目の不自由な方
・声をかけ、情報を伝える。
・誘導する場合は、杖を持った方の手には触れず、ひじのあたりを軽く持ってもらい、半歩手前をゆっくり歩く。
- 車いすを利用している方
・階段では2人以上が必要。
・上りは前向き、下りは後ろ向きにして移動する。
・介助者が1人の場合、ひもなどを用意し、おんぶして避難する。
- 耳の不自由な方
・話すときは、口をハッキリと開け、相手にわかりやすいようにする。
・手話、筆談、身振りなどの方法で正確な情報を伝える。